

人間の優しさ引き出す動物

宇都宮農林専門学校(現宇都宮大学)獣医科卒。上野動物園でパンダ飼育チームリーダー。多摩動物公園園長、上野動物園園長を歴任。現在、日本動物愛護協会理事など



東京動物園協会常任理事

なか がわ し ろう
中川 志郎さん

命実感する契機に

老人の顔に笑顔戻ると、どんな成果が得られているのですか。
柴内 訪問先は七〇%が老人ホーム、あとはハンディキャップのある方々と子どもたちの施設です。効果は、信じられないほど。重度の痴ボウ症で表情も言葉も失った老人が、一頭の犬と数分ふれあっている間にだれにも見せなかった笑顔を取り戻しました。そういう例は無数にあつて、世界中のデータが裏づけています。動物は、人間の心の窓を開ける素晴らしい能力を持っているんです。

飼いたいが飼えない
総理府の二年前の調査によると、東京では六六%の人がペットを飼いたいのに、実際に飼っているのは

柴内 ええ、昨年十二月に横浜地裁で判決があり、いま高裁で審理中です。集住住宅だからこそ、動物と共に暮らすというのが私の願いです。一律禁止にならないためにも、飼う人がルールを厳守することが基本。それには教育や啓発を徹底することです。私どもの協会では小学校の学年別に外国の本を翻訳して、全国に配りたいと思っています。お年寄りのためのハンドブックも準備しています。犬や猫も、しつけをちゃんとすれば、部屋も足洗

共生を考える対談

ヒューマン・アニマル・ボンド大賞創設



日本動物病院福祉協会CAPP委員長

しば ない ひろ こ
柴内 裕子さん

心の窓を開ける力

柴内 「ヒューマン・アニマル・ボンド」は人と動物とのきずなです。人間の歴史の中で、人と動物とのきずなは自然に結ばれてきました。それに気づいた人たちがアメリカで七〇年代に始めた活動なのです。彼らは「アルタソサエティ」という世界最初で最大の組織を作り、世界中に支部ができています。ほかにも私どものCAPPのような活動をしている団体が各国にあります。人と動物のふれあいによる効果を、人と動物双方の福祉に結びつけようというのが、

柴内 核家族で、我慢や我慢を我慢して生きていくという時代が経たないで育った子どもたちが集まると、面倒なものは排除され、弱い者は放置され、いとしが考えられませんか。動物と一緒に生活すると、面倒も見ていたわることにも学ぶので、きょうだいみたいな存在になります。また何年も共に過ごした動物の最期を見守ること、永遠の別れがどんなに悲しくつらいか勉強する貴重な機会にもなります。ストレスの多い職場で働く大人にとっても、動物が跳ね回って歓迎してくれるという家庭環境はとても大事です。

柴内 とても多いですね。いまマンションでは子どもと動物がいけないというわけていますが、お年寄りが住宅を貸してもらえない例もあるようです。弱いとか、心配な人は遠ざける風潮でしょう。マンションでの犬の飼育を禁止した管理規約が有効、という判決も出ました。昨年の暮れでした

院協会会長。現在、日本動物病院福祉協会相談役など